



毎日猛暑の日（気温30度以上）が続いています。今年は35度以上も連日観測され、最近「炎暑」や「命に関わる危険な暑さ」という言葉をテレビや新聞で見聞きするようになりました。新型コロナウイルスの感染拡大に加えて、熱中症の発生も大変危惧されるところです。

そんな厳しい暑さの中にも、南高鍋の国道10号の道路沿いでは今年もパンパスグラス（西洋すすき）の穂が顔を出し始め、通行する人の目を癒してくれています。その穂の色の変化に、夏の盛りから秋の始まりも少しずつ感じる頃になりました。

長いと思っていた今年の夏休みもあと約1週間。楽しかったことや頑張ったことなど、一人一人にとって心に残る夏休みにできているでしょうか。毎日の学習（課題）も計画どおりに進んでいるでしょうか。8月27日（木）からの2学期の始業に向け、残り1週間の生活リズムを整えて、全員が身も心も頭も、いいスタートができるように有意義に過ごしましょう。



戦後75年 平和について考える 「八月や 六月 九日 十五日」

むい か ここの か じゅうごにち

日本人にとって、8月は平和の尊さを確かめる大切な月です。1945年（昭和20年）8月6日の広島への原爆投下、9日の長崎への原爆投下、そして15日の終戦など、忘れてはならない歴史があります。この月は、テレビなどでも平和について考える番組が数多く放送されます。昭和20年には、高鍋町でもアメリカ軍による攻撃が行われ、高鍋駅付近（蚊口浦）でも空襲による大きな被害がありました。



時代とともに戦争の体験や記憶が風化されていく中、その悲惨さや平和の尊さを、私たちは世代から世代に受け継いでいかなければなりません。次の文は今年の広島平和記念式典での小学生児童の「平和への誓い」です。（一部省略）

「75年は草木も生えぬ」と言われた広島町の。75年がたった今、広島町は、人々の活気に満ちあふれ、緑豊かな町になりました。

この町で、家族で笑い合い、友達と学校に行き、公園で遊ぶ。気持ちよく明日を迎え、さまざまな人と会う。

当たり前前日常が広島町には広がっています。

しかし、今年の春は違いました。当たり前だと思っていた日常は、ウィルスの脅威によって奪われたのです。当たり前前日常は、決して当たり前ではないことに気付かされました。

そして今、私たちはそれがどれほど幸せかを感じています。

75年前、一緒に笑い大切な人と過ごす日常が、奪われました。昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分。

目がくらむまぶしい光。耳にこびりつく大きな音。人間が人間の姿を失い、無残に焼け死んでいく。

～ 省略 ～

「あのようなことは二度と起きてはならない」

広島町を復興させた被爆者の力強い言葉は、私たちの心にずっと生き続けます。

～ 省略 ～

私たちは、互いに認め合う優しい心を持ち続けます。

私たちは、相手の思いに寄り添い、笑顔で暮らせる平和な未来を築きます。

8月は人権啓発強調月間です

宮崎県では毎年8月を「人権啓発強調月間」としています。夏休みやお盆休みなどで親戚や他の人たちとふれ合う機会が多くなるこの時期に、普段よりも人を思いやる、人権を尊重することの大切さについて考えてみましょうという趣旨のものです。私たちも、あらためて毎日の自分の身近なところから見つめてみましょう。

「聞こう 話そう 分かり合おう 一人一人の いいところ」

高鍋東中学校は、昨年度の「全国中学生人権作文コンテスト」に多数出品して、中学生の人権意識高揚のために貢献したということで、法務省及び全国人権擁護委員連合会から感謝状を贈られました。

